白山市立松任図書館だより

2016年　2月号

2016年2月1日発行
編集・発行＝白山市立松任図書館
〒924-0872　白山市古城町1番地
電話(076)274-9877　FAX　(076)274-5401
URL http://lib.city.hakusan.ishikawa.jp
e-maill:library@lib.city.hakusan.ishikawa.jp

祝　本谷有希子さん芥川賞受賞

白山市出身の本谷　有希子さんが、小説『異類婚姻譚』（群像１１月号）にて、第154回芥川龍之介賞を受賞されました。県内では、初の芥川龍之介賞受賞となります。受賞を記念して、１月２９日（金）～２月２８日（日）まで、白山市立図書館全館で、「本谷有希子特別展」を開催いたします。
また、「ほんのおすすめ」からも作品と共に略歴を紹介させていただきました。

（いずれも無料。詳しくは図書館までお尋ね下さい。）

★　冬を楽しむ本 展

期間：～2月２８日(日)まで
会場：１階展示コーナー
内容：さむ～い季節。体の芯から温まる鍋料理や雪遊びなど冬を楽しく過ごすアイディアが紹介されている本を展示します。

★　ブックスタート

＊４ヵ月児健診のお子さんと保護者
2月１８日（木）、２５日（木）
会場：健康センター松任
内容：絵本を通じて親子がふれあうことの大切さをお話しします。絵本入りバッグをお贈りします。

★　手とおはなしの会

日時：2月２７日(土)午後１時３０分～
会場：2階おはなしルーム
対象：ろう児とその保護者
内容：ろう者の大人の方による手話でのおはなし会です。

イラストC．Y

★　あまんきみこ＆いわさきちひろ　展

期間：～3月２９日(火)まで
会場：２階こども図書館
内容：「ちいちゃんのかげおくり」等で知られるあまんきみこさんと「窓際のトットちゃん」などの挿絵で有名ないわさきちひろさんの本を紹介します。

★　ボランティアデー

日時：2月　2日（火）・２０日（土）
午前９時～１０時
場所：１階ロビー集合
内容：返却資料の配架と書架整理

★　おはなし会

♪0･1･2歳児向け
2月　3日(水)午前１１時～　アリス文庫
2月１０日(水)午前１１時～　図書館職員
2月１７日(水)午前１１時～　ハローリトルワールド
2月23日(火)午前１１時～　松任おはなしの会

♪幼児向け
2月　6日(土)午前１１時～
ひまわり地域活動クラブ・金城大学短期大学部
2月１３日(土)午前１１時～　ＡＢＣの会
2月２０日(土)午前１１時～　おはなしびわの実
2月27日(土)午前１１時～　松任おはなしの会

♪小学生向け
２月　６日(土)午後2時３０分～　図書館職員
2月２０日(土)午後２時３０分～　図書館職員

会場：いずれも２階おはなしルーム

「白山市立松任図書館だより」は、松任図書館ホームページ上でもご覧いただけます。

ほんのおすすめ

図書館長
おすすめの一冊

海にはワニがいる

ファビオ・ジェーダ著　飯田亮介訳
早川書房　973 ｼﾞ

昨年は難民問題について多く論じられる１年でした。この本は、迫害の危機から故国アフガニスタンを脱し安住の地をもとめて国から国へと命がけの旅をする少年の実話に基づく物語です。

主人公の少年エナヤットラーは１０歳のある日、母の手により隣国パキスタンの町で置き去りにされた。それは、息子に生きていってほしいという母の最期の愛だった。密入国した者の恐怖、空腹の苦しみ、子供だからといって容赦しない過酷な労働や不衛生な環境そして病…１０代の８年間をエナヤットラーは、すべて乗り越えなければならなかった。

アフガニスタンからパキスタン、イラン、トルコ、ギリシアそしてイタリアへ運び屋と言われる得体のしれない大人たちと交渉し、たどりついた先々の町で働きながら命の保証のない旅を続けるしかない。

そんなエナヤットラーの希望…それは、働きたい勉強したいふつうに人間らしく暮らしたいという願いだった。

本谷　有希子　氏　略歴

１９７９年7月、白山市生まれ。

１９９８年4月、高校卒業後上京。２０００年9月、「劇団、本谷有希子」を旗揚げし、主宰・作家・演出家を務め、第1回公演「腑抜けども、悲しみの愛をみせろ」をプロト・シアター（高田馬場）にて上演。２００７年戯曲「遭難、」にて、第１０回鶴屋南北戯曲賞を最年少で受賞。２００９年には戯曲「幸せ最高ありがとうマジで！」にて第５３回岸田國士戯曲賞を受賞。

また、２００２年3月、『江梨子と絶対』（群像増刊エクスタス4月号）にて、小説家デビュー。その後、２０１１年に『ぬるい毒』（新潮社）で、第３３回野間文芸新人賞を受賞。２０１３年『嵐のピクニック』（講談社）にて、第7回大江健三郎賞を受賞。２０１４年には、『自分を好きになる方法』（講談社）にて第２７回三島由紀夫賞を受賞。

２０１６年1月、『異類婚姻譚』（群像１１月号）にて、第１５４回芥川龍之介賞を受賞。

三四郎　「夏目漱石全集」第４巻

夏目漱石著　岩波書店　918.68 ﾅ

今年は夏目漱石没後１００年になります。「坊ちゃん」や「吾輩は猫である」はあまりにも有名ですから、今回は、「それから」（明治４２年作）、「門」（明治４３年作）とともに前期三部作の一つと言われる「三四郎」（明治４１年作）を紹介します。

熊本の高等学校を卒業した小川三四郎は、大学で勉強するために上京した。同郷の先輩の野々宮宗八とその妹よし子、上京の汽車で知り合った広田先生と彼を慕う佐々木与次郎や野々宮の友人里見の妹である美禰子らとの交際を深めていく。中でも、どことなく謎めいた美女、美禰子に思いを馳せるようになる。自分に気があるようにも見えるが、美禰子の真意を測りかねているうちに、彼女は、三四郎がこれまで出会ったことのない紳士と婚約してしまう。最後は、「ストレイシープ（迷える羊）」で締めくくられています。

三四郎を含めた前期三部作は、「恋」・「愛」それも「実らぬ恋」、「道ならぬ愛」と悲劇的な恋愛がキーワードと受け止めました。

また、漱石の作品の大きな特徴は、何と言っても、「文語体」ではなく「口語体」で書かれていることです。旧仮名づかいはあるものの、それほど苦労もせずに読むことができました。

腑抜けども、悲しみの愛を見せろ

本谷有希子著　講談社　913.6 ﾓ

著者が主催する「劇団、本谷有希子」の第一回公演の脚本を小説化したものです。事故で両親を亡くすという不幸にみまわれた山村の一家「和合家」。

葬儀をきっかけに集合した義理の兄妹の長男宍道・長女澄伽・次女清深、そして長男の妻待子。

澄伽は高校生の頃、女優になる資金を稼ぐため同級生と関係を持った。そんな姉の秘密が綴られている日記を盗み読みしていた清深は、それを題材にして漫画を描き、それが雑誌に掲載された。澄伽は当然世間のさらし者になり、もともと複雑な家庭内の人間関係がひび割れてくる。

過去の確執から心に歪みを持つ登場人物たちの個性を掘り下げた作品。

２００７年には佐藤江梨子主演で映画化もされています。